

魔法の種 プロジェクト最終成果報告書

報告者氏名：小路 隆之

所属：川崎市立川中島小学校

記録日：2017年1月28日

○キーワード

通常学級に在籍する学習に困難さを持つ児童に対して iPad を使うことにより「わかった!」「できた!」の体験を積み重ね、自ら学習する意欲を養っていくことができるか
「書きの指導」「コミュニケーションの指導」

【対象児の情報】

- ・学年 4年生
- ・困難の内容 複数回答可
診断は受けていないが、主に書きとコミュニケーションに困難さがある。

【活動目的】

- ・当初のねらい
- 漢字やノートなどの書きの力を支え、書くことに対して自信をつける
- 学級の友達とかかわる機会を増やし、自分から進んでかかわろうとするコミュニケーション意欲を高めるようにする
- ・実施期間
2016年5月～2017年2月
- ・実施者
小路 隆之
- ・実施者と対象児の関係
児童の学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況：

●書くことについて

- ・情報の入り方としては、視覚優位である。
- ・学習したことが定着しにくい。特に漢字の書きの習得に困難さがある。
- ・短い文章でも、見て書くと情報を極端に落としてしまって、後で何を書いたのかわからなくなる。
- ・字形も崩れるので本人の几帳面さから納得がいかず書いたものを塗りつぶしている。
- ・書くタイミングやどこを書くか、何を書くのかわからなくなる。

●コミュニケーションについて

- ・友達との関わりがあまりなくて、心配である。
- ・会話では目が合わないことや会話が独り言のようになる。
- ・コミュニケーションが一方的になりがちで、学年相応の対人関係が築きにくい。
- ・対人関係では、友達とかかわりながら学習する場面はほとんど見られなかった。
- ・話をしている途中でも思ったことを唐突に話すので、話が二転三転しやすい。
- ・話し言葉を聞いている限りでは言語理解は低く、語彙も少ない。
- ・聴くことについては、どこに注意を向ければよいかかわからないことと、口頭指示が増えると記憶を保持できない。

■対象児の強み

- ・一度ルールを理解すると変更なく、遵守する。
- ・真面目で、几帳面である。
- ・清掃時間には、ほうきで教室の隅のほこりを丁寧に集める姿が見られる。
- ・決まったパターンがあり、几帳面さが達成できれば自分から進んで動くことが出来ている。

●その他学習について

- ・全体での指示は通りやすく、集団の活動についてくるのが難しかった。
例えば、情報の入り方としては、視覚優位が強く出ている。そのため、運動会のダンス練習では、教員の指示を聞いて動くのではなく隣の児童の動きを見ながら、ワンテンポ遅れて、踊ることができていた。また、目に見えない情報（状況・雰囲気・意図）をキャッチすることも苦手であった。
- ・学習活動への意欲が見られなかった。
- ・学習準備や身の回りの整理整頓が苦手であり優先順位をつけることが難しかった。
- ・自己肯定感が低く、自分に対して否定的な言葉を使っていた。

・活動の具体的内容と対象児の事後の変化

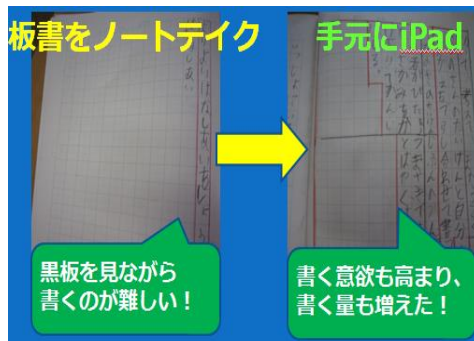
① 書きに対する支援（情報の入り方としては、視覚優位であるため）

使用したアプリ	支援場面と方法	対象児童の変化
 <p>常用漢字筆順辞典</p>	<p style="text-align: center;">～書きを支えるために～ 書きの字形と想起を支えるために</p> <p>国語の漢字学習の時に、使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題の書きの練習 <p>アニメーションでわかるように、書き順や形を確認しながら、漢字を書いた。</p> <p>学級全体でもテレビに映して、常用漢字筆順辞典を使用しながら、筆順の確認をしていた。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: 10px auto;">写真</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き順や形を確認しながら、漢字を書く姿が見られた。iPad も、自分で見やすいように立てて、進んで使用していた。 ・これまでの学習では、漢字テストの時と同様、姿勢が崩れることが多かったが、ipad を使用すると意欲的になった。また、漢字の形を捉えることと、漢字を想起することに繋がった。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: 10px auto;">写真</div>
 <p>静かにタイマー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習の時に、常用漢字筆順辞典で確認した後、静かにタイマーを活用して、テレビに映して使用していた。 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: 10px auto;">写真</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力が途切れてざわつくと、ブルドッグが吠えるというゲーム性を取り入れることで、対象児を初め、クラス全体集中力が高まった。時間内に書く量も増え、漢字学習の効果に繋がった。
<p>上記のアプリを使った漢字学習をした上で、選択式回答を取り入れ、想起の負荷を減らしていくことで、正しい漢字を選んで書くことができた。徐々に負荷をかけていき、自力解決へ繋げていった。また、選択式解答という手立てをとることで、本人の学習意欲も高まってきている。11月頃から、選択式解答ではなく、通常通りにテストを行った。すべて解答もうめ、正答率も上がった。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">選択式回答</div> 



カメラ機能

ipad のカメラ機能を活用して、板書の写真をとった。手元に iPad を置いて見ながら書いた。



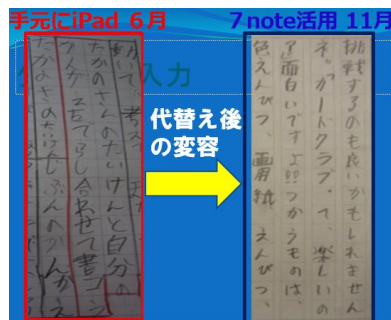
- ・すらすら書くことができた。黒板を見ながら書くよりも、意欲的になり書くスピードが上がり、すらすら書いた。手元に iPad があると、書く意欲も高まり、書く量も増えた。
- ・しかし、課題も見つかった。黒板をノートテイクするよりも、字が雑になっていることである。また、漢字もひらがなに交換してしまうため、後でよむのがむずかしく、見返せないノートになってしまっている。

～書きを支えるために～ 文章を書く 想起を支えるために



7 note

代替えの手だてとして、7ノートというアプリを使用した。国語のクラブ活動リーフレットの原稿を仕上げていた。



7note だと、考えたことをすぐにタイピングができ、長文を書く手立てとなった。文字が丁寧になっていることと、予測変換機能により、選択式解答と同様に、漢字の想起に繋がり、漢字が多く使われていることもわかった。また、7note を活用することによって、主体的に、最後まで書いて、取り組む姿が見られるようになった。

② コミュニケーションに対する支援

(友達とかかわる機会を増やし、コミュニケーション意欲を高めるようにするため)

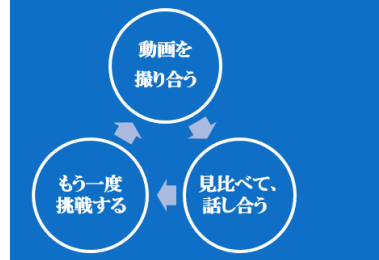
使用したアプリ	支援場面と方法	対象児童の変化
<h2>～コミュニケーションを支えるために～ 友達との関わりを支えるために</h2>		
	・見比べレッスンは、主に体育の学習	



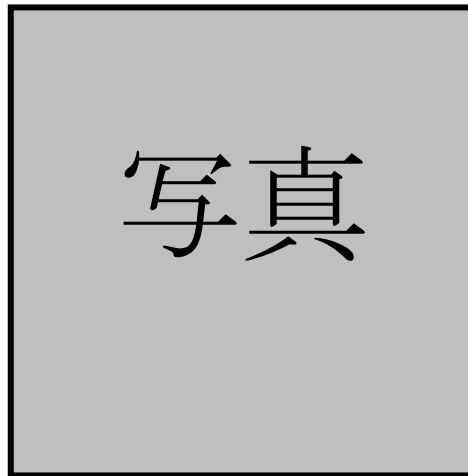
見比べレッスン

の中で使用した。はじめに、動画を撮り合う、次に見比べて話し合う、最後に、もう一度挑戦する。このサイクルで実践した。

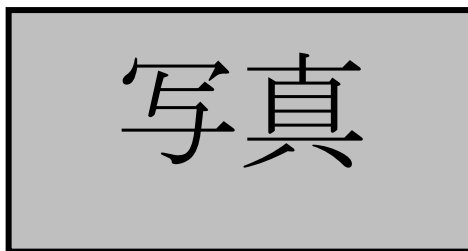
見比べレッスンの手順



- ・ 体育の跳び箱の学習でペアとなり、互いにビデオを撮り合う

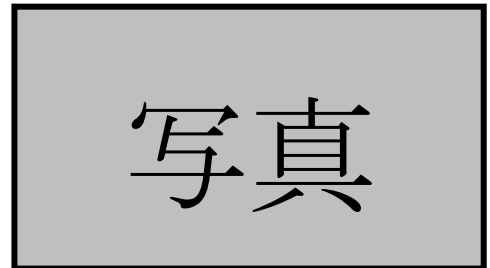


- ・ グループで集まって、見比べたい2つの動画を見ながら話し合っ進めた。



- ・ 教室に戻り、大型テレビに画面を映しだし、学級全体で振り返りをした。クラスで手本となる子の跳び方と、対象児の跳び方を見比べた。・ 対象児は、次にどのように跳ぶとよ

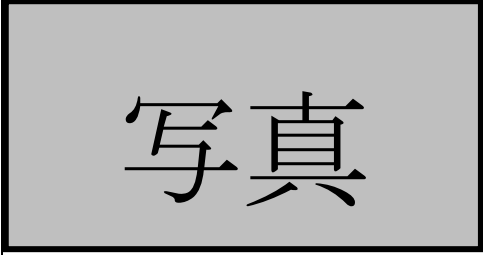
- ・ 友達同士が必然的に関わり合うことができ、コミュニケーションが生まれた。対象児には、普段見られない友達と関わる光景が見られた。



- ・ Ipad を使うことで、友達とのコミュニケーションも増え、学習意欲も高まり、自信につながった。

- ・ 友達が対象児の跳び方に対して、真剣に意見を述べる様子が見られた。

いかを、話し合った。



・学級の友達とかかわる機会を増やし、コミュニケーションの意欲を高めるようにする。」ねらいで取り組んできたが、結果マット運動でも高跳びでも、技術的な高まりも見られた。

・マット学習や跳び箱学習と同様の手順で行った。



iMovie

対象児には、学習の中で動画や写真の記録係をお願いした。児童と一緒に加工・作成して、学習の終わりには、みんなで鑑賞した。撮った映像を、大型テレビに映して、見せた。

・誕生日会の時に映像を作成した。



・対象児も、記録係の役割をもつことで、対象児の思いをみんなと「情報の共有」する機会となった。対象児が言いたいことをみんなが捉えたり、みんなが言いたいことを対象児が受け止めたりすることができるようになり、一方的なコミュニケーションから双方のコミュニケーションへと繋がった。

・友達から、「がんばって。」「すごいね。」の声をかけられることが増えてきた。

・自信をもって進んで行動する場面が見られるようになってきた。みんなの前で発言する姿も増えてきている。



～コミュニケーションを支えるために～
前提となる情報取得と
イメージの広がりを目指して



NHK for School

・算数の時間、大型テレビに映し出して、視覚支援を行った。

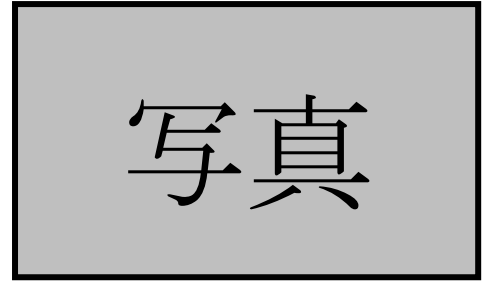
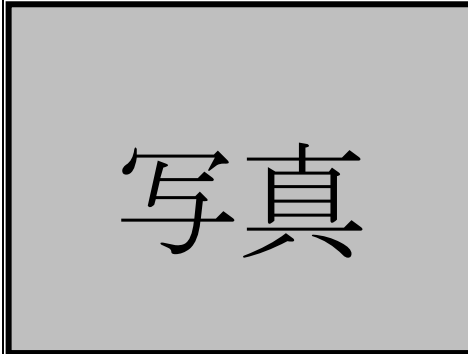
・面積の学習の中でも、事前に動画を通して学び、本人の抽象概念を補い、理解につなげることができた。





UD トーク

- ・問題を具体的に絵や画像にしたり、具体物を活用したりして、理解しやすい方法に置き換えるようにした。
- ・図工の学習では、発声したり手書きしたりして活動の手順を文字化した。



- ・学習の見通しをもてるようになり、スムーズに活動に取り組めるようになった。担任と会話する時に、「文字に変わるから楽しい。」とつぶやきながら、情報を発信しようとする姿が見られた。このように、UD トークを使用することにより、話したこと・聞いたことを文字で確認することができ、「視覚的にわかるから、話したくなる」とコミュニケーションの意欲に繋がった。

【対象児の事後の変化】

- ① 書きに関わる支援をすることによって
 - ・漢字の形を捉えることと、漢字を想起することに繋がった。
 - ・今まで自分から取り組まなかった漢字の学習に対して前向きに取り組むようになった。
 - ・漢字テストでは、以前より習った漢字が定着するようになった。
 - ・主体的なノートテイクや長文の記述を行うようになった。
- ② コミュニケーションに関わる支援をすることによって
 - ・周囲の理解が深まり、対象児童を支えてくれるようになった。
 - ・学級の友達とかかわる機会が増え、コミュニケーションの意欲が高まった。
 - ・自信をもって進んで学習する姿が増えた。

【報告者の主観的気づきとエビデンス】

・気づき

- ① 学習に対して前向きに取り組むようになった。（学習機会の保障）
- ② 学級の友達とかかわる機会が増え、コミュニケーション意欲が高まっている。（対人関係の構築）
- ③ 自信をもって進んで学習する姿が増えている。（主体性の向上）
- ④ 周囲の理解が深まり、対象児童を支えてくれている。（環境調整）

・エビデンス

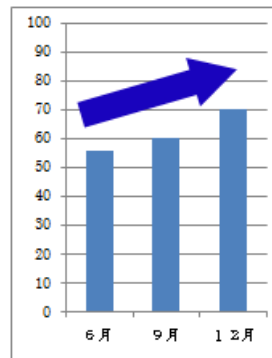
- ① 学習機会の保障
 - ・板書をカメラ機能で撮り、手元で ipad で確認するこ



とによって、書く意欲も高まり、書く量も増えた。

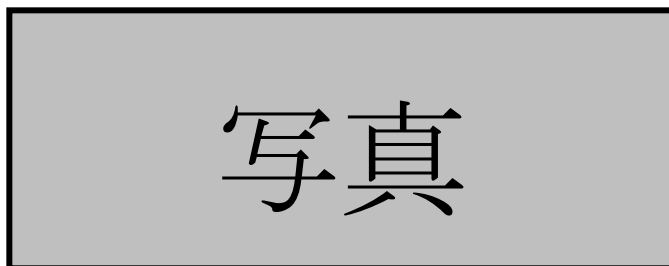
7 note を活用することによって、自分の考えをためらわないでタイピングする姿が見られた。その記録を基に、主体的にノート記入して、作文を書く姿が見られるようになった。

- ・全学年漢字一斉 50 問テストでは、6 月には 56 点、9 月には 60 点、12 月には 70 点と、漢字の想起に繋がったことと、学習意欲が高まったことが実を結び、成果が表れるようになった。



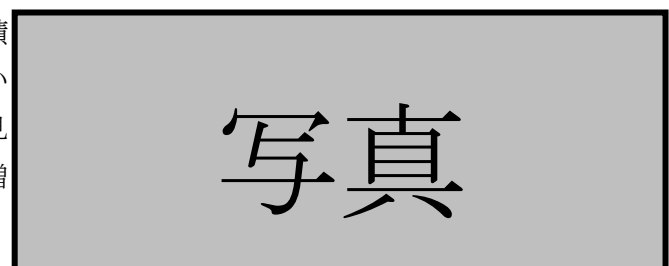
② 対人関係の構築

- ・iPad を使用することにより、視覚的に即時に確認したりテレビで映像を観たりすることができ、「視覚的にわかるから、話したくなる」がコミュニケーションに繋がった。例えば、体育の跳び箱やマット運動では、「ぼくのマットを撮って。」と自分から友達や担任に依頼する姿も見られた。



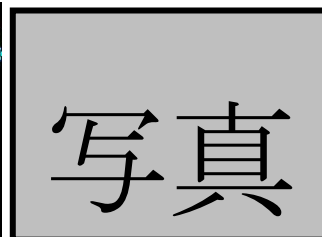
③ 主体性の向上

- ・学習の中で、「わかった!」「できた!」という体験を積み重ねていることや、友達に認められる機会が増えていることによって、自信をもって進んで行動する場面が見られるようになってきた。みんなの前で発言する姿も増えてきている。



④ 環境調整

- ・啓発授業で周囲の友達に iPad 使用の理解を深めたことにより、友達からも励まされたり認められたりする機会が増えた。また、最前列の座席にして、テレビと黒板の近くで視覚的な配慮をしたりすることによって、集中力が持続し、落ち着いて学取り組む姿が見られるようになってきた。



・その他エピソード

12月に保護者と個人面談を行い、いくつか家庭での変化や、感じておられる子どもの変容についてお聞きすることができた。

【書くことについて】

4月当初に漢字学習の宿題が出た時には、漢字を思い出すことができず、夜遅くまで叱りながら取り組ませていた。本人も泣きながら宿題に取り組んでいたとのことである。それが、「夏休み明け頃から、漢字を思い出し

ながら書くことができるようになり、私も叱らずにすむようになった。」と話をしていた。また、漢字一斉チャレンジテストで、初めて70点もとることができ、驚いていた。

【コミュニケーションについて】

4月当初は、母が物事に対して指摘すると、何も言い返せずに黙ってしまっていたけど、12月頃には自分の考えを言うようになってきた。話が上手になった。今までしたことがなかった親子げんかもするようになった。と、うれしそうに話をしていた。